

多聞台防災福祉コミュニティ 地域おたすけガイド

災害時初動対応マニュアル

地域おたすけガイドの作成にあたって

- ◎地域おたすけガイドは、地域の皆さんが災害時に活動する際に、活用するものです。
- ◎災害時は周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- ◎防コミで訓練を通して繰り返し検証して、多聞台地域に適したガイドにするために、どんどん見直していきましょう。
- ◎毎年一回は総会等で確認する機会を設けましょう。

令和2年3月作成

多聞台防災福祉コミュニティ

目 次

多聞台地域の主要施設・設備等	1
多聞台地域福祉センター防災資機材庫収納品リスト	2
防災拠点の体制案	3
多聞台防災福祉コミュニティ組織表	6
災害対応活動のイメージ	7
各家庭での災害対応	8
非常時を見越した食料や物資の準備	9
地域で準備しておくべきこと	10
風水害発生時における災害対応	11
地震発生時における災害対応	12
避難世帯リスト・避難者調査票	14
活動の事前指示書	16
* 情報収集・伝達	16
* 安否確認	17
* 自力での避難が困難な人の避難支援	18
* 救出・救護活動	19
* 消火活動	20

災害発生時や緊急時の連絡先

垂水区役所	☎708-5151	多聞台地域福祉センター	☎785-7030
垂水消防署	☎786-0119	多聞台小学校（避難所）	☎782-0375
垂水警察署	☎781-0110		
垂水建設事務所	☎707-0234		
NTT	☎113		
水道局	☎784-0550		
（下水）	☎784-0550		
大阪ガス	☎0120-7-19424		
関西電力	☎0800-777-3081		

■多聞台地域の主要施設・設備等

防コミ運営本部 設置場所	多聞台地域福祉センター ☎078-785-7030 【防コミ運営本部設置基準】 ・風水害による大規模な被害が発生すると予想される場合 ・震度5以上の地震が発生した場合 ・その他、委員長と役員が協議し、設置が必要であると判断した場合	
地域福祉センター 鍵保管者	P.6 防コミ組織表参照	
近隣の 避難所	多聞台小学校 ☎078-782-0375 ※災害時給水拠点として、いつでもじゃぐち整備済み	
地震時 ブロック本部 一時集合場所	第1ブロック	*多聞台地域福祉センター
	第2ブロック	*多聞台中央公園時計台 *寺池川親水プロムナード南端
	第3ブロック	*多聞台団地第二集会所
	第4ブロック	*多聞台集会所前 *多聞台小学校北東交差点
	第5ブロック	*松ヶ池公園北東交差点
防災資機材庫 設置場所	多聞台地域福祉センター	多聞台小学校
防災行政無線 設置場所		
要援護者支援名簿 保管場所		
福祉避難所	多聞台地域福祉センター	☎078-785-7030

多聞台地域福祉センターは「福祉避難所」に指定されています

福祉避難所の開設は、対象者の人数や施設の状況、対応可能な人員や物資の確保の状況等を踏まえて、市が判断します。災害時に常に開設される訳ではないため、要援護者の方を含め、まずは一般避難所へ避難することになります。

■多聞台地域福祉センター防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所：多聞台地域福祉センター

確認日：令和元年2月13日

鍵保管者氏名：

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量	
消火用資機材	動力消防ポンプ	1	個人装備品	ヘルメット		搬送用・本部用資機材	折畳みリヤカー		
	粉末消火器			ジャンパー			一輪車		
	強化液消火器			夜光ベスト	20		台車		
	訓練用消火器	10		手袋			本部用テント		
	布バケツ	30		腕章	5		折畳み式テーブル		
	組立水槽			携帯用電灯	30		発電機	1	
	オイルパン	1					投光機		
	スタンドパイプ		救出・救助用資機材	スコップ			訓練用放送セット		
	消火栓キー			バール	14		サルベージシート		
	手かぎ			簡易ジャッキ			コードリール	1	
	ホース	1		チェーンソー			ストーブ・ヒーター		
	管槍・ノズル	1		可搬式ウインチ			冷風機		
	いす・椅子・いす			エンジンカッター					
	媒介金具類			のこぎり			炊き出し用具	かまどセット	
	消火用ボックス			つるはし				コンロ	
携行ガソリン缶	1	ハンマー			鍋				
		おの			やかん				
		はしご・脚立		ポリタンク					
救急・救護用具	救急セット		コンクリート破碎器具		その他				
	多人数用救急箱		災害救助工具セット			拡声器（メガホン）			
	折畳み式担架	1	とびぐち			トランシーバー			
	車いす		救助用ロープ			拍子木			
	牽引式補助具		救助用安全帯			くさび			
	AED		ボルトクリッパー			防コミ旗			
			スクレーパー						

【特記事項】

第1ブロック 多聞台地域福祉センターに集まる人

役員名	氏名	電話番号	備考

第2ブロック 多聞台中央公園時計台に集まる人

役員名	氏名	電話番号	備考

第2ブロック 寺池川親水プロムナード南端に集まる人

役員名	氏名	電話番号	備考

第3ブロック 多聞台団地第二集会所に集まる人

役員名	氏名	電話番号	備考

第4ブロック 多聞台集会所前に集まる人

役員名	氏名	電話番号	備考

第4ブロック 多聞台小学校北東交差点に集まる人

役員名	氏名	電話番号	備考

第5ブロック 松ヶ池公園北東交差点に集まる人

役員名	氏名	電話番号	備考

■災害対応活動のイメージ

多聞台地域

各家庭・ご近所

台風や大雨が接近した場合

- * 基本は自宅待機で情報収集
- * ベランダの整理や窓ガラスの飛散防止等、暴風対策を行う



地震が発生した場合

- * 自分と家族の身の安全の確保
- * 近所の人への安否確認・避難の呼びかけ（可能な範囲内で）



各ブロックの役員は予め決められた公園や集会所などに集まる

各ブロック本部・一時集合場所

情報班

- * 被害状況や安否確認情報の収集・整理
- * 防コミ運営本部への情報伝達

避難誘導班

- * 安否不明者の確認
- * 自力での避難が困難な人の避難支援



救出・救護班

- * 被災者の救出
- * 負傷者への応急手当



消火班

- * 出火場所の確認と人員の割り振り
- * 初期消火の実施



民生委員や多聞台ささえあいチームのメンバー等と協力して避難支援を行う

活動を通じて得た情報を集約し、情報を本部へ伝達

避難

地区の被害状況安否確認の情報をもち寄る

避難所 (多聞台小学校)



避難所運営

- * 避難者名簿の作成・整理
- * 避難者からの被害状況や安否確認情報の収集・整理
- * 災害対応活動の人員の募集
- * 支援物資の配布（自宅待機者含む）



生活班

- * 食材や調理器具の調達
- * 炊き出しの実施

情報を本部へ集約

避難してきた人に災害対応活動への協力を要請する

必要な場所へ人員を派遣

集合

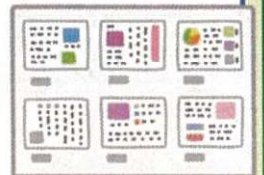
防コミ本部役員は地域福祉センターへ駆けつける

防コミ運営本部 (多聞台地域福祉センター)

- * ふれまち委員長、防コミ本部長、各ブロック長等で本部を開設

災害対応活動統括

- * 各ブロックの役員や指定避難所からの情報の集約・整理
- * 各地区の課題に対応するための人員の調整・派遣
- * 区役所・消防署・警察署等への情報伝達




地域で集約した情報を行政へ伝達・支援要請

行政機関

区役所・消防署・警察署等

■各家庭での災害対応

各家庭で日頃から災害への備えをしておく	確認欄
各家庭で食料や物資を備える。最低3日分、できれば7日分準備しておく。	
家具の転倒による怪我や閉じ込めを防ぐため、金具や突っ張り棒、ベルト等を使って固定しておく。	
土砂災害警戒区域やまちの危険箇所、避難所までの経路等、普段から住んでいる地域の状況を把握しておく。	
家族との連絡方法や避難場所等を普段から話し合っておく。	
緊急時に気象情報や避難情報をいち早く発信する「ひょうご防災ネット」(http://bosai.net/kobe/)等の情報サービスに登録しておく。	

台風や大雨が接近した場合の災害対応のポイント

① 基本は自宅待機
→避難する場合は早期を心掛ける

暴風時の外出は危険を伴うため、基本的には自宅の安全な場所で待機する。ただし、土砂災害警戒区域内の住民は、「避難準備・高齢者等避難」が発表された段階で、必要ならば避難を開始する。その他停電や孤立等が心配な人も、避難するかどうかを自主的に判断して早めに避難する。




② 強風への対策

強風による落下物や飛散物を出さないよう、庭やベランダの不要なものを撤去したり、物干竿を固定しておく。窓ガラス等の破損やそれによる怪我をしないように、雨戸やカーテンの閉鎖を徹底する。



地震が発生した場合の災害対応のポイント

① まず身の安全を守る



しせいを低く



頭を守って



動かない

地震の揺れを感じたら、まず姿勢を低くし、丈夫なテーブルの下に隠れたり座布団等を使って頭を守り、ある程度揺れがおさまるまで、じっと動かない。

② 家族の安全を確保する

家族の安否を確認し、家具が倒れてこないような、家の中の安全な場所に避難する。



③ 避難経路を確保する

建物がゆがんでドアがあかなくなれば危険。ドアや窓を開けておく。



④ 身支度を整える



靴を履き、あらかじめ用意しておいた防災グッズや工具等を確保する。

⑤ 正確な情報を収集する

正しい情報を聞くことが大切



テレビ、ラジオ、スマートフォンなどを使って、正しい情報を得る。

⑥ 火・電気を始末する

CHECK! CHECK!



火器の火を止め、ガスの元栓を締める。電気のブレーカーを落とす。

⑦ 安否確認や避難の呼掛け



可能な範囲で近隣への安否確認や避難の呼掛けを行う。

■非常時を見越した食料や物資の準備

東日本大震災では、満足に食料を調達できたのが災害発生から3日目だったそうです。最低3日、できれば7日分の食料や物資を備えておきましょう。

安心ストック

ライフラインが途絶えても、何日間かは自給自足してしのぐための物品を備蓄しておきましょう。



- 水** 調理のことも考えて1人1日3リットルを目安に
- 主食** ご飯の場合は、レトルト、多めに炊いたご飯を冷凍しておくなど
- 缶詰** 長期保存に適しています缶切りが必要なタイプもあるので注意
- インスタント食品**
- フリーズドライ食品**
- 漬物** 梅干しなど
- 乾物** 不足しがちなビタミン、食物繊維の摂取に役立ちます
- 菓子類** チョコレート、キャンデーなど
- 調味料**



- キッチンペーパー**
- ポリ袋 (大、小)**
- ティッシュペーパー**
- トイレットペーパー** 南海トラフ地震では不足すると言われています
- 簡易トイレなど** 災害用トイレなど断水状態でも使用できるように
- 家庭用救急セット** 毛抜き、ガーゼ、包帯など
- 持病薬** 無くなる前に診察を受け、数日分をストック合わせて処方箋のコピーも
- 生理用品**
- 充電器、予備の乾電池**



いつもケータイ

災害はいつ起きるかわかりません。いつも使うバッグやポケットに入れて身につける、あるいは枕元に置いておきましょう。

- 家、車の鍵**
- 財布** 小銭も入れておく
- 身分証明書**
- 健康保険証**
- 携帯電話** できれば充電器も
- 筆記用具** できれば油性ペンも



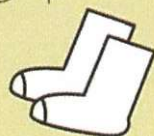
- ハンカチ、手ぬぐい**
- マスク** ふんじんを防ぎましょう
- 懐中電灯** ベンライト、携帯電話でも代用可能
- 携帯ラジオ** 手回し・ソーラー式なども便利
- スリッパ** 食器棚等が倒れ、ガラスが散乱した場合、足を守ることができます
- 緊急ホイッスル** 居場所を知らせる用です



非常持ち出し品

家の倒壊や火災等によって避難が必要となった場合、さっと持ち出して逃げられるようリュックサックに入れておきます。

- 飲料水** 1人最低 500 ミリリットル
- 加熱がいらぬ食料**
- ラップ** 清潔なものであれば、止血、食器覆い用
- サバイバルシート** 保温性の高いアルミシート
- 着替え** 肌着など
- タオル** 洗って乾かしたもの



- 軍手・ゴム手袋**
- 雨具**
- マッチ、ライター、ろうそく**
- 生理用品** 清潔なものであれば緊急時の止血用としても
- 歯ブラシ** 誤嚥性肺炎を防ぎます
- 預貯金通帳・印鑑**



※さらに詳しいチェックリストについては、人と防災未来センター発行の小冊子を参照「減災グッズを備えよう！」

→http://www.dri.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/bousai_goods.pdf



■地域で準備しておくべきこと

多聞台防災福祉コミュニティ	確認欄
非常時に多聞台地域福祉センターに駆けつけ、防コミ運営本部を立ち上げるためのメンバーを確認しておく。 ※P.3を参照	
非常時に多聞台小学校に駆けつけ、避難所を開設するためのメンバーを決めておく。 ※P.3を参照	
非常時に連絡が取り合えるよう、防災福祉コミュニティや各ブロック・自治会等の名簿・連絡網等を整理する。 ※P.4を参照	
多聞台小学校における避難所の開設(門や体育館の開放手順等)や運営について、施設関係者と協議する。	
各ブロックで、集会所や公園など、災害発生時に集まる場所を確認しておく。 ※P.1を参照	
防災資機材庫の鍵の所有者や収容品を確認・点検する。 ※P.2を参照	
防災訓練等を通じて、防災資機材庫の収容物の補充や追加を行う。	
月刊ミニコミ誌「和と輪」や広報たるみ等を活用し、日頃から各家庭、及び各ブロックとしても災害への備えをしておくよう意識啓発を行う。	
民生委員や多聞台ささえあいチームのメンバー等と協力し、各ブロックで避難支援が必要な人の対応について協議しておく。	

■風水害発生時における災害対応

【災害発生前】

防コミ運営本部の立ち上げ		確認欄
大規模な風水害が発生すると予想される場合、防コミ本部役員同士で連絡をとりあい、防コミ運営本部を立ち上げるかどうか協議する。		
必要と判断された場合、ふれまち委員長、防コミ本部長、各ブロック長等、予め決められたメンバーは多聞台地域福祉センターに集まり、防コミ運営本部を開設する。		
情報収集・伝達		確認欄
各ブロック・自治会等を通じ、各家庭で台風や大雨が接近した場合の災害対応のポイントに従って行動するよう呼びかける。 ※P.6を参照		
避難所と連絡を取り合い、避難所の開設状況や避難した人の情報等を収集・整理する。		

神戸市が発表する避難情報について

警戒レベル	避難情報	求められる行動
警戒レベル3	<p>避難準備・高齢者等避難開始</p> <p>大雨や暴風が続くと見込まれ、土砂災害や洪水が発生する可能性が高まっている状況。</p>	<p>お年寄りの方、体の不自由な方、小さな子供がいらっしゃる方など、避難に時間のかかる方と、その避難を支援する方は避難を開始してください。</p> <p>それ以外の方は、いつでも避難ができるように備えてください。</p>
警戒レベル4	<p>避難勧告</p> <p>土砂災害や洪水などが発生する恐れがあり、命が危険にさらされる可能性が高まっており、避難が必要。</p> <p>避難指示（緊急）</p> <p>災害の前兆現象が発生、切迫した状況から命が危険にさらされる可能性が非常に高まっている状況。緊急に避難が必要。</p>	<p>速やかに避難を開始してください。外が危険な場合は、自宅の2階以上の部屋など（土砂災害の場合は山と反対側）に避難してください。</p> <p>緊急に避難してください。外が危険な場合は、自宅の2階以上の部屋など（土砂災害の場合は山と反対側）に避難してください。</p>
警戒レベル5	<p>災害発生情報</p> <p>既に災害が発生している状況。</p>	<p>ただちに命を守る最善の行動をとってください。</p>

※警戒レベル1及び2は気象庁が発表

【災害発生後】

※安否確認、自力での避難が困難な人の避難支援、救出活動等具体的な災害対応活動については、次ページ以降の「地震発生時における災害対応」参照

■地震発生時における災害対応

【災害発生直後】

防コミ運営本部の立ち上げ		確認欄
ふれまち委員長、防コミ本部長、各ブロック長等、予め決められたメンバーは多聞台地域福祉センターに集まり、防コミ運営本部を開設する。		
地域の地図や名簿、メンバーで情報を共有するための機材（ホワイトボードや模造紙等）を準備する。		
各ブロックの役員や避難所（多聞台小学校）と連絡を取り合い、被害状況や避難者の情報を収集・整理する。		
収集・整理した情報を区役所、消防署、警察署等に連絡する。		

各ブロックの災害対応		確認欄
各ブロックの役員、防災活動が可能な住民は、予め決めておいた公園や集会所などに集まる。		
役員が中心となり、必要に応じて以下のような災害対応活動を行う。		

【情報班】情報収集・伝達		確認欄
ブロック内の被害状況や安否確認情報を収集・整理する。		
収集・整理した情報を防コミ運営本部へ伝達する。電話が通じないといった状況によっては、情報をやり取りするための伝令を派遣する。		

【避難誘導班】安否確認・避難支援		確認欄
民生委員や多聞台ささえあいチーム等と協力し、安否不明者の確認を行う。特に安否確認が必要な人の名簿等を事前に用意している場合は、それらを活用する。		
自力での避難が困難な人（災害時要援護者や障がい者、お年寄り、妊婦、負傷者等）の避難支援を行う。		

【救出・救護班】救出・救護		確認欄
二次災害に注意しながら、防災資機材等を活用し、被災者を救出する。		
被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、避難所、医療機関へ搬送する。		

【消火班】初期消火		確認欄
地区内の出火場所を確認し、消火活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。		
消火器や布バケツ等、あらゆる消火器具を活用して初期消火を行う。		

避難所の立ち上げ		確認欄
学校関係者や区役所職員と協力して多聞台小学校に避難所を開設する。		
避難者調査票等を活用し、避難者名簿を作成する。 ※P.12~13を参照		

【災害発生から数時間～3日（72時間）くらい】

防コミ運営本部の運営		確認欄
各ブロックの役員や避難所等との連絡を通じ、地域内の被害状況等を収集・整理する。		
収集・整理した情報を区役所、消防署、警察署等に連絡し、支援の要請を行う。		
各ブロックで必要な災害対応活動の人員が不足している場合は、可能であれば防コミ運営本部で調整し、応援を派遣する。		
避難所の運営		確認欄
避難者調査票等を活用し、避難者のより詳細な情報を名簿にまとめる。 ※P.12～13を参照		
避難所に来た人々から、地域の被害状況や安否確認情報を収集・整理し、防コミ運営本部へ伝達する。		
各ブロック・自治会等で必要な災害対応活動に関して、避難所に来た人々から協力者を募る。		
【生活班】炊き出しの準備・実施		確認欄
避難生活の長期化に備え、食材や調理器具等を調達し、炊き出しの準備をする。		
避難者数などに応じて必要な量・可能な種類の炊き出しを実施する。		
生活情報の収集・周知		確認欄
生活情報を収集し、地域住民へ周知する。		
防火・防犯パトロール		確認欄
パトロール班を結成し、二次災害に注意しながら、交代で地域内のパトロールを行う。		

避難世帯リスト

	世帯主氏名	住所（垂水区以降の住所）	男性（人数）	女性（人数）	合計（人数）	到着時間	帰宅時間
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

※垂水区以外の避難者は都道府県名から住所を記入すること

※避難者が20世帯を超える場合は20世帯以降に記入すること

避難者調査票

※太枠部分は必ずご記入下さい。

避難所名 ()

①記入時点	年 月 日 時 分	②入所日	年 月 日
③代表者氏名			氏名
④住所	〒 -		住所
			連絡先
			() -
⑤電話番号	() -		⑨自宅の被害状況
⑥電話番号(携帯)	() -		<input type="checkbox"/> 全壊 <input type="checkbox"/> 大規模半壊 <input type="checkbox"/> 半壊 <input type="checkbox"/> 一部損壊 <input type="checkbox"/> その他 ()
⑦車種・ナンバー			⑩避難場所
			<input type="checkbox"/> 建物内 <input type="checkbox"/> 車中泊(避難場所敷地内) <input type="checkbox"/> 持参テント(避難所敷地内) <input type="checkbox"/> その他 ()
⑪避難場所滞在理由	<input type="checkbox"/> ライフライン不通(電気・ガス・水道・電話) <input type="checkbox"/> 余震が不安 <input type="checkbox"/> 自宅の片づけができない <input type="checkbox"/> 必要な物資が手に入らない <input type="checkbox"/> その他 ()		
⑫家族構成など		⑬以下に該当するものがある場合は項目を○で囲ってください	⑭備考欄 (病気や食物アレルギーなど)
フリガナ氏名	年齢続柄	ア. 要介護3以上 イ. 障がい(身体・知的・精神・発達・内部) ウ. 難病 エ. 妊産婦・乳幼児	
代表者	年 月 日生 歳		
ご家族様等	年 月 日生 歳		
ご家族様等	年 月 日生 歳		
ご家族様等	年 月 日生 歳	ア. 要介護3以上 イ. 障がい(身体・知的・精神・発達・内部) ウ. 難病 エ. 妊産婦・乳幼児	
ご家族様等	年 月 日生 歳		
ご家族様等	年 月 日生 歳		
ご家族様等	年 月 日生 歳		
聞き取りメモ(職員記入欄)		記入者名 ()	

情報収集・伝達

1. ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
2. 地域内の災害情報を把握する。

情報収集・伝達手順

1. 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

①ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

②行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に向くなどして、公開されている情報を収集する。

③各ブロックからの情報収集

地区内の被害状況や避難状況等の情報を収集する。

2. 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

安否確認

安否不明者の確認を行う。

- ①事前に用意している災害時の要援護者名簿に基づき安否確認を行う。
- ②事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。

訪問先での確認手段

1. 外観の確認

建物に甚大な被害がないかを確認する。

2. 声かけ・呼びかけ確認

門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。

3. ドアをノックする

応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックする。

4. 庭、勝手口等の確認

状況が把握できないときは、庭、勝手口などを確認する。

自力での避難が困難な人の 避難支援

1. 自身の安全を確保した上で、二次災害に気をつけながら可能な限りで、避難する必要のある人の支援を行う。
2. 集会所や避難所に集まった人々から協力者を募り、支援者の割り振りを行う。

避難支援のポイント

1. 一人暮らし高齢者
迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。
2. 寝たきりの要介護高齢者
避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
3. 認知症の人
安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。
4. 視覚障がい者
音声による情報伝達や状況説明、避難誘導等の援助が必要。
5. 聴覚障がい者
補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。
6. 言語障がい者
手話、筆談等によって状況を把握することが必要。
7. 在宅人工呼吸器使用者
避難所での電源確保が必要。

救出・救護活動

1. 防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
2. 救護（応急手当）を実施する。
3. 集会所や避難所に集まった人々から協力者を募り、救出・救護活動人員の割り振りを行う。

救出・救護手順

1. 被害の実態把握

- ①倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- ②建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- ③二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

2. 二次災害の防止

- ①木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- ②柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- ③火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

3. 要救助者の救出

- ①要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。
- ②要救助者を無理に引き出そうとしない。

4. 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

消火活動

1. 研修を受けた人が中心となり、耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し、初期消火を行う。
2. 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

消火活動手順

1. 消火用水の選定

- ①火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側を使うなど風向きに注意する。
- ②河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かばないようにする。
- ③ポンプから水面までの高低差は7m以内を目安とする。

2. ホースの延長要領

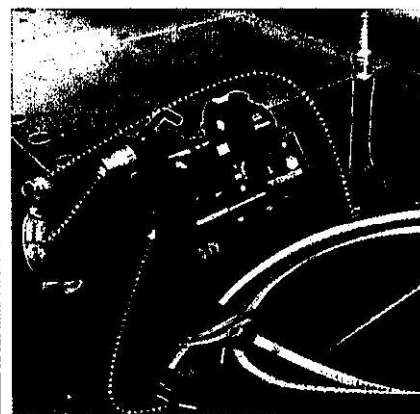
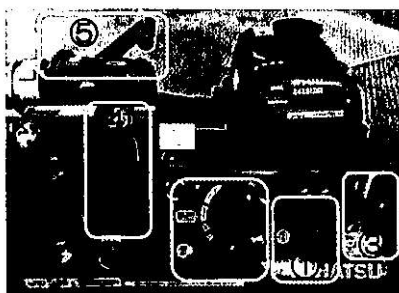
- ①道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- ②ホースの結合は離脱しないように確実に行う。

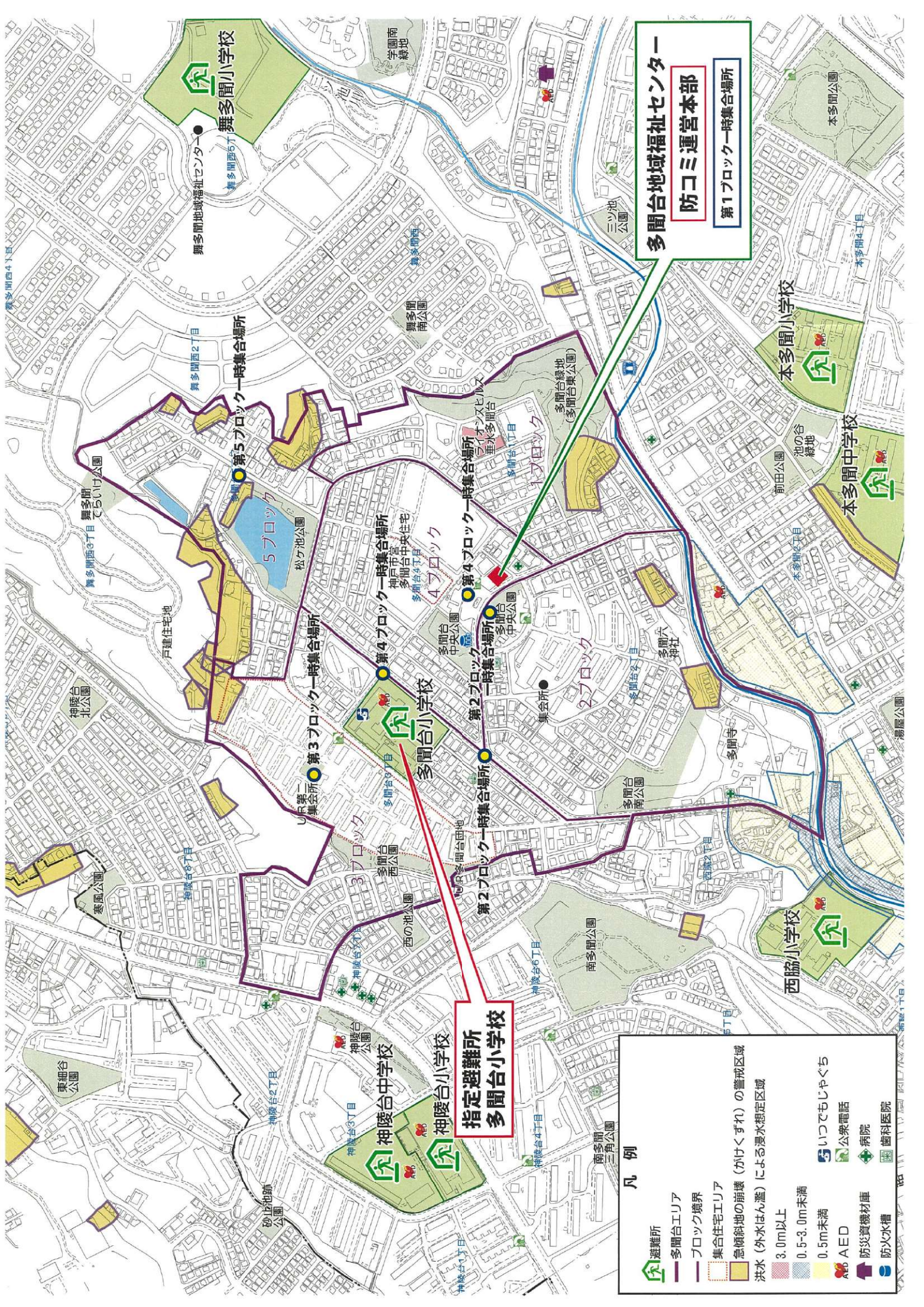
3. 送水の時期

- ①ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- ②放水口コックを開けるときはノズルの反動力を考え徐々に行う。

小型動力ポンプの使い方

- ①燃料コックを開く。
- ②スロットルダイヤルを「給水・始動」の位置に合わせる。
- ③リコイルスターターハンドルを強く引張り、エンジンを始動させる。
- ④給水レバーを引き上げ、水を吸い上げる。
- ⑤放水口コックをゆっくり開きながら全開にし、放水を行う。





多聞台地域福祉センター
防コミ運営本部
 第1ブロック一時集合場所

指定避難所
 多聞台小学校

- 凡例**
- 避難所
 - 多聞台エリア
 - ブロック境界
 - 集合住宅エリア
 - 急傾斜地の崩壊（がけくずれ）の警戒区域
 - 洪水（外水はん濫）による浸水想定区域
 - 3.0m以上
 - 0.5-3.0m未満
 - 0.5m未満
 - AED
 - 防災資機材庫
 - 防火水槽
 - いつでもじゃぐち
 - 公衆電話
 - 病院
 - 歯科医院